



秋田県立
能代高校
東京同窓会

会報

No.5
事務局
〒164
東京都中野区中央5-7-1
棟友和
TEL. 03-3383-2111



校歌

文学博士 藤村 作詩
東京音楽学校教授 岡野貞一作曲

- 一、そのかみはうか城瀧く
尽きせぬ流れ米代の
水に我等の誓はしき
若き生命を讃へつ
若き生命を讃へつ
- 二、み空にひびく日本海
沖より寄す巨濤の
巖つんぞく勢に
強き力を学びつ
強き力を学びつ
- 三、平和の相樽子山
常盤の緑旭日に
映えて我等の麗はしき
清き操をたぐへつ
清き操をたぐへつ
- 四、薫し高き学び舎の
象徴をかかげひたすらに
学びの道く究めりや
奮へ松陵我が健児
奮へ松陵我が健児

能代高校東京同窓会のあゆみ

年度	総会 日/時	出席 者数	案内状 発送数	招待 者数	あ ゆ み
32					後藤氏など有志の方々が、東京支部の形で活動始める
41					この年の総会がきっかけとなり、毎年総会を開催し、同窓生の親睦を図ろうと決定された
48					斬新なる理想に燃えた有志が、会の発展のため、テコ入れを始める
50					東京在住の同窓生は、卒業生のための宿泊所などを作らなければ、と革新的な意見が出る
51					○役員改選 ●名誉支部長 腰山(前支部長) ●支部長 板倉(前副支部長) ●副支部長 塚本, 柳谷 ○組織が固まる
52	10/ 8	71		4	
53	10/13	78	400		○会則一部改正 ○茗溪会館に感謝状贈呈
54	10/21	62	500		○名簿作成
55	9/27	56		4	○8月末現在名簿登録者425名
56	10/ 3	85	445	5	○能代高校東京同窓会と改称 ○役員改選 ●名誉会長 腰山 ●会長 板倉 ●副会長 後藤, 吉田, 河田, 相沢, 栗原, 太田, 高谷 ●会計監査監事 村井, 八柳 ●事務局長 小林
57	10/ 2	93	467	7	
58	10/ 1	88	502	5	○名簿作成 ○役員改選
59	10/ 6	76	565	5	
60	10/18	100	600	6	○役員改選
61	10/ 3	124	656	4	○山田敬三氏講演 ○能代北高, 能代工高同窓生を来賓として招待
62	10/ 2		960		○役員改選 ○会報第1号発行
63	10/ 7	121		15	○斎藤忠生氏講演 ○名簿作成 ○会報第2号発行
平成 元	10/ 6	203	1,338	15	○役員改選 ○山田久志氏講演 ○同窓会より東京同窓会に同窓会会旗贈呈 ○茗溪会館に感謝状贈呈 ○会報第3号発行
2	10/ 5	151	1,272	11	
3	6/ 8/ 10/ 5	131		13	○会則一部改正 ○会報第4号発行 ○役員改選 ●会長 小林 ●副会長 近藤, 太田, 菅原 ●会計監査監事 村井 ●事務局長 八柳 ●会報編集長 杉崎 ●顧問 腰山, 板倉, 後藤 ○高橋正太郎氏講演 ○東京同窓会10周年記念総会開催
4	4/ 10/ 2				○会報第5号発行 ○東京同窓会総会開催予定

国内外の問題

国務大臣・総務庁長官就任記念講演より

ただ今、神馬同窓会会長さんからご紹介頂きましたが、旧制十五期、昭和十九年に能代高校の前身である能代中学を卒業しました佐々木満でございます。

学校の所在地も異なり、校舎も一新した中に学ぶ皆さんに、私が学んだ当時の思い出を語るのも場違いと思えますので、今日は皆さんがこれから生きていく将来について、少しお話ししてみたいと思います。

二一世紀も後わずか十年足らずの先に迫っております。これがどういう時代であるかはよくわかりません。プロ野球でもそうですが、予測



というものはなかなか当たりません。二〇世紀当初に予測したことで当たったものもあります。が、当たらなかつたものも少なくない。今世紀中に台風がなくなるとか、動物との会話が自由になるなどの予測は当たりませんでした。

このように予測は難しいものではありませんが、今後、科学技術をどう使うか人間が悩む時代になることだけははっきり予測できます。また、国際化が益々進むことも予測できます。

電気製品が普及したのは、つい最近のことです。昭和十九年、能代中学の校舎が全焼しましたが、それを知らずに登校してきた友人が少なくありませんでした。当時はラジオさえ持たない家庭がごく普通だったのです。その点現在の科学の進歩には、目を見張るものがあります。バイオテクノロジーの研究が進めば、好きな生物が作れます。人間さえ作れるでしょう。その反面、人間を大量に殺戮する核兵器の研究も進むかも知れません。つまり、科学は進歩さえすればそれでよいという時代ではなくなっているのです。

たとえば、二十年ほど前に日本で始めて心臓移植が行われました。これも放置すれば、やがてあさましい人間が他人の丈夫な心臓を望むようになります。脳死についてもさまざまな問題があります。医学の面では進歩と言えても、社会的にはそのまま素直に受け取りかねるものが

参議院議員 佐々木 満氏 旧制十五期

平成三年六月三日
於・能代高等学校体育館

あります。科学をどう使うのか、今結論は申しませんが、よく考えて頂きたいと思えます。国際化という点では、日本人が考えるほど世界は単純ではないことを、まず知ってもらいたい。人口の多い国もあれば少ない国もある。国土面積、経済力、生活水準、生活様式、みなまちまちです。このことをよく理解してかからなければ、本当の国際化は望めません。

世界を複雑にしているものに、民族・宗教・国境問題などがあります。世界にはたくさん民族があり、それが深刻な問題を生んでおります。日本人は宗教に比較的に寛大ですが、宗教に厳しい国もあります。いろいろな宗教を信じる人が多くの国に分かれており、さまざまな問題を生みかつ複雑にしております。北方領土を除けば、国境問題にも日本人はあまり関心がありませんが、外国には人為的な国境さえあって、血で血を洗う紛争の源となつていける所もあるのです。日本人であることに自信と誇りをもつと同時に、これらの諸問題をよく考え、他国の事情を理解してこそ、本当の国際人であると言えます。

最後になりますが、私は、学校時代の恩師と友人が私の宝であるといつも思っております。皆さんも感動のある高校生活を送って、あなたが二一世紀を生きていく上で、かけがえのない三年間にしてください。

平成三年能代高校東京同窓会総会開催

平成三年十月五日・午後五時
於・茗蹊会館

第一部 講演会
第二部 懇親会
第三部 懇親会

●開会の挨拶●

秋田県立能代高校東京同窓会会長

坂倉 創造氏 旧制三期

えー、久しぶりでございます。能代高校の同窓会はご承知の通り、毎年一回ここでやるわけですけれども、今日も去年と同じように、能代から同窓会々長さんもお見えになり、校長先生にもおいで頂いております。また今年も、新卒の若々しい皆さんもたくさん参加されている。この同窓会もかなり回を重ねましたが、このような会は始めてではないかと思えます。秋田県の数ある同窓会の中でも、わが能代高校東京同窓会は、最も特色ある立派なものであると確信しております。

この同窓会は、一部・二部・三部と分かれておりまして、第一部は講演会、第二部が総会、第三部が懇親会となっております。講演会は毎年三十分ぐらいの短い時間ではありますが、先輩の方々いろいろな話をして頂いております。今年も卒業生の高橋正太郎さん、旧制九期ですから昭和何年になりますか……、十三年、あー、そうですか。能代中学を昭和十三年卒業、東京商大を出て外務省に入省、ワシントン・バンコック・ロンドン各大使館に勤務され、その後、クウェート・イラン・フィンランドの各大使を歴任の後退職されました。現在は財団法人ラチオプレスの理事長としてご活躍をされております。こういう長い外国での生活

は非常に貴重なご経験でございます。今日は、そのご経験を踏まえた『外から見た日本』という題でのお話を頂戴したいと思えます。それでは、最初に講演会から始めることにいたします。

高橋さん、よろしく願います。

第一部 講演会

『外から見た日本』

元駐フィンランド大使

高橋 正太郎氏 旧制九期



ただ今、ご紹介に預かりました旧制九期の高橋でございます。中学時代は父が鷹巣農林の教頭だった関係で、鷹巣から能代まで汽車通学をやっております。神馬同窓会会長も五能線で

の通学で、汽車通学の連中はみんななかなか頑張っております。その後、東京商大、今の一橋大学を経て外務省に入り、先ほどご紹介がありました通り、あちこち行って参りました。外務省の生活は約四十四年間、四年ほど前にフィンランド大使を最後に退官いたしました。この四十四年のちょうど半分の約二十二年間を海外で生活したわけでございます。その中でいちばん長いのがアメリカで八年。ワシントンに二回、そして、ニューヨークでは総領事をやりました。ヨーロッパでは、ロンドンに四年近く滞在。最後はフィンランドの大使を三年ほどやっております。アジアでは、バンコックの大使館に若い頃二年おりました。中東は合計六年、クウェートに三年、間にニューヨークをばさんでイランで、ちょうどイラ・イラ戦争の最中で革命になったときでしたが、向こうでの生活を送りました。たまたま中東のご縁が深かったものですから、昨年会報に何か書かないかと言われまして「国ざかい」という駄文を草したわけですが、すでにイラクがクウェートに侵攻しておりましたが、まさかあのような大戦争になるとは思いませんでしたので、いちばんの問題はクウェートとイラクの間のプリアンとワルバという二つの島で、国ざかいの問題はなかなか難しいなどと、のんきな話を書いてしまいま

湾岸戦争の波紋と 今後の世界情勢

サダム・フセインさんも、アメリカがあればほど急に乗り込んでくるとは思っていなかったのでしょう。彼も誤算だったかもしれないが、私もまさかあのような結果になるとは思いませんでした。私のクウェートでの経験からしまして、あの暑さの下で戦車の中において国連軍が戦争するのは大変なことだ。しかも相手のイラクは、イランとの間で八年間も実戦を経験している。ところがいざ始まるや、地雷は一挙に爆発させるはピンポイントのねらい打ちの爆撃はやるはで、あのような短期間に終わってしまいました。ただ、サダム・フセインもやられはしましたが、からも親衛隊を残すなどしておりまして、イラクではまだ彼が頑張っておりまして、イラク・イラン戦争の際にも、『悪魔の詩』ではありませんが、イランは反対する者には刺客を差し向けて息の根を止めるという戦法を取っておりまして。しかし、そのイランと八年間も戦争して、サダム・フセインはやられなかった。なんでも影武者としてソックリさんが何人もいて、どれが本当の大統領かわからない格好にして生き延びてきたという話もあります。

アメリカないしは西側が懸念していたのは、イラクが中東第一の軍事大国になって油を抑えてしまうことでした。そうなると中東の勢力のバランスがどうなるか。イラク一色になるのではないか。その心配が一応取り除かれたわけ

すから、国際正義の面から見て、相手の中まで踏み込んで為政者をやつつけるといふことはしませんでした。イラクの軍事力が縮小された結果、代わってお隣のイランになかなかの力が出てきたようです。しかし、あの戦争のよかつた点と言うと少しおかしく聞こえるかもしれないが、中東の和平の話がアメリカとソ連を中心にかなり煮詰まってきた、最後にはパレスチナの代表を誰にするかで、近々落ちつきそうところまでできています。これが成功すれば、それがあの戦争のプラス面だったと言えそうです。

あの戦争の結果、テレビでいろいろなものをリアルタイムで見せてもらいました。おかげで中東に関する知識も進み、イスラムに対する理解も深まったのではないかと思います。生活様式も異なり、われわれとはまったく違った宗教であるイスラム教は、アフリカのモロッコあたりからアジアのインドネシアまで広がり、それにソ連にも数千万のイスラム教徒がおります。つまり、世界の人口の約四分の一はイスラム教徒というわけですから、われわれも生活や信条は違つていても、それに対する理解が必要であるのかと思ひます。特に日本は中東に油を依存しております。しかし、油とは無関係に、世界の四分の一を占める人たちの相互理解を深めるといふことが、今後とても重要です。

イラク・イラン戦争のとき、世界中がイランに対して門戸を閉ざしておりました。ところが日本だけは、イランの人が観光ビザで三カ月間来るのは自由、唯一の開かれた国という関係であつたわけです。そのため、今でもイランからはた

くさんの労働者が来ています。私の家内の実家は茨城県にあるのですが、小さな町に二百人ぐらいいらんの人に来ていて、手先も起用で一生懸命やると、なかなか評判がいいようです。このようなことが広がって、中東の人との関係が深まればおおいに結構だと思います。

主としてアメリカ主導型で湾岸戦争もあいう形で終結を見たわけですが、こうして見ると、世界の構図の中で、ソ連の力というか、グリッブというものが昔に比べてずいぶん低くなりました。そのためかえって、アメリカ・ソ連の協力で中東和平も今後うまくいくのではないかと思ひます。

ソ連のグリッブが弱くなつてきているということは、ソ連の経済がうまくいかない点にあると思ひます。市場経済への移行と言ひながら、それが思うようにいかない。先日、ソ連の経済の専門家のお話を聴きましたが、物がなないのでなく物はたくさんある。ただそれがうまく流通機構に乗らない。そのため必要などころに行き渡らない。このことがいちばんの問題だということです。食糧にしてもそのようだそうです。インセンティブというか、どこか他で作つた物、ソ連国内で物を生産した人の励みになるような物があつて、それと交換に物資が市場に回るようにしてもらえれば非常にありがたい。外からはそういう意味での援助を期待する、とソ連の経済の専門家は言つております。ただ、内政面でも、この前のクーデターの失敗もあり、共産党が事実上失権して、連邦制にガタが来ました。その結果、ロシアを始めとする各共和国が

強くなつて、エリツイン大統領がひとときわ頭角を表すことになつたわけです。そのほか民族主義も強くなり、バルト3国が独立しました。

そのような情勢の中で、日本として気になるのは北方領土の問題ですが、これに関しては、昨日のソ連の新聞イズベスチアによると、一八五五年の下田条約でロシア領土はウルツプ島より北であると定めていて、ということをやソ連側が始めて認めたというところまできています。連邦制でありながら各共和国の力が強くなつていて、実状から、日本としても誰と交渉してよいか、どこにポイントを置くのかが問題になります。昔の資料で正しい事実を認めようとして始めて、昔の資料で正しい事実を認めようとして始めたわけですから、日本としては現実を見つめてあわてないでじっくりやつていく必要があるのではないかと思ひます。特に四つの島にはもう四十年も住みついている人たちがいます。やはり住めば都、この人たちにとつては、自分の国・自分の町となつていくわけですから、それから、それに対しては十分な補償をする。また、主権が日本に返つてきても、どうしても住みたい人にはそこにいてもらえばいいだろうと思ひます。私個人の考えですが、米ソの冷戦状態がここまで沈静化し軍縮がさらに進めば、日本に主権をゆだね、北方4島は非軍事地帯ということにして、お互いの経済開発の拠点に使えれば非常にいいのではないかと思ひます。

『外から見た日本』というのは漠然として大きな題ですが、考え方は、今のソ連との交渉からわかる通り「日本から見た世界」ということでもあります。日本としては日米安保体制の基にここまで来ました。アメリカとソ連の冷戦状態が緩み協調の時代となつた今、もう安保はい

らないというわけではありませんが、このままではいいかを見直さなければなりません。日本はまったく無防備でいいとはいきませんので、憲法の下でどうしたら正しく日本を守れるか、専守防衛がどういう手段ならばムダなく行えるのかなど、さらにいろいろなことを考えなければならぬと思ひます。

思い出される 皇室外交の実績の数々

今まで海外にいろいろな感じたことがありますが、時間に限りもありますので、特に強く感じたことを一点だけ申し上げます。それは皇室外交ということですが、イギリスも王室外交をやつておりますが、日本は日本なりの皇室外交というのが非常に印象的であります。前の昭和天皇は、非常にお人柄が純粹で、ひたむきで物事をゆるがせにしない方であつたという感じがしております。五年前の一九八六年の秋、昭和天皇のお人柄に惹かれて、ぜひ公式訪問をしたいという希望がありまして、フィンランドのクイビスト大統領が来日しました。昭和天皇にお目にかかれるのが外国の元首の日本に来る楽しみで、おおいに感激をするという様子でございました。たまたまフィンランド大統領の来日を前に、私に一時間のご進講をしろとのことでした。その間にざつとばらんにいろいろ申し上げましたが、たとえばその中で、フィンランドの特徴は3つのSであり、3つのSとは、サウナであり、作曲家のシベリウスであり、シスという言葉であるというお話を申し上げます。シスというのは、S I S U と書いて「フィンランド魂」、ガッツと言うか、昔のわれわれ

の大和魂に等しいものがあります、などとご説明申し上げました。その後、天皇からフィンランドの政治などについて、いろいろご下問がありました。さらには「先ほど大使はサウナと言つたが、サウナとは何だ」と申されました。えつ、天皇はサウナをご存知ないのか、と思ひました。「まあ、蒸し風呂のようなものです」と申し上げておきました。

その後いろいろお話がありました。大使はオーロラを見たことがあるか」と言われましたので、「残念ながら見たことはございませんし、見た人の話も聴いたこともございません」と申し上げました。「本当に見たことがないのか」と、再度お尋ねになりましたので、「私がロンドンに赴任中に、天皇・皇后両陛下がヨーロッパを訪問されて、アラスカの上を飛ばれた際、陛下ご自身がオーロラをご覧になつたという話は新聞で拝見しておりますが、私は見たことがございません」と申し上げましたところ、首を傾げておられました。

天皇陛下にああまで不審がられては、何か申し訳ないような気分でしたが、天皇陛下はよくよく運のいい方だったのでしよう。アメリカへ行かれるときもヨーロッパへ行かれるときも、飛行機の窓からオーロラをご覧になられたわけです。私が一九七一年にロンドンにいたとき、両陛下が来られたのですが、その日はものすごく霧が深く、飛行機が着けるか着けないかという状態でした。ところが陛下がタラップを降りられるときになって、急にパツと空が明るくなり、その上だけに陽が射してきました。天気の良い具合とは言え、通常そんなことは考えられません。やはり天皇陛下は一種違うんだなあ、感じがいたしました。天皇陛下は、ご自分がご

覧になられたのだから、北緯七〇度ぐらゐのヘルシンキにいたら、絶対に見えるに違いない。ヘルシンキに住んでいる大使が何でオーロラを見ていないのかと、ご不審を抱かれたわけでしょう。私も何か申し訳ないような気がしまして、ヘルシンキに帰ってから国立天文台に行つていろいろ聴き、ビデオなども見せてもらいました。しかし、調べれば調べるほど、オーロラはものすごく運のいい人だけが見られるものなのだと思います。ビデオやスチール写真などを天文台から取り寄せて、昭和天皇に献上と言いますか、納めさせて頂いたことがございました。

今の陛下は皇太子時代に、二十五年ぐらゐ前になります。私がバンコックにおりましたときに、美智子妃殿下ともにおいでになりました。そのときは、お昼ご飯もそこそこに待ちかねたように、お魚が大好きなものですから、池にお魚を掬いに行かれるわけです。なにしろハゼの大家です。お帰りになったあとタイの国中からいろいろな種類のハゼを取り寄せまして、陛下にお送りするというのもございました。タイの軍隊が動員されて、ハゼを集めてくれたということもありました。最近、新聞の社説にちよつと出ておりましたけれども、かつて陛下はタイで蛋白源に困つてゐることを知られて、ナイル川のテラピアとかいう稚魚を取り寄せられて、それをタイに送られた。それがだんだん増えて、タイの蛋白源になつてゐる。この前、バングラデシユで大洪水があつたとき、タイからバングラデシユにこの魚が送られたとのこと、たいへん役に立つてゐるようでございます。

六年ぐらゐ前ですが、私がヘルシンキにいたときに、皇太子・美智子妃殿下がおいでになり

フィンランドは大歓迎をいたしました。初めはこちらも新聞に取り上げてもらいたいものですから、いろいろ資料を送りつけるのですが、いっこうに取り上げる気配がない。こちらはハラハラして催促したりしたのですが、向こうはそんなにあわてる必要はない、そんなに前に載つてもみんな忘れてしまうから、直前の2、3日前でいいと、こう言うのです。本当に本番のちよつと前になると、ありとあらゆる新聞に、



北欧の森で親しく取材に応じられる両陛下

日本の皇室のことは何でも書いてあるような特集号が出ました。しかも、われわれですとヘッドラインだけ見て、ああ、あの記事かといった感じですが、フィンランドの人たちは非常に字を大事にする国民なのです。たとえば、博物館などに行きましても、われわれだったら目玉はどれだと聴いてそれだけしか見ないといった傾

向があります。向こうには、字が書いてあればそれを克明に読むという国民性があるわけですね。ですからこの特集号をものごくよく読んで、皇室一家のことならばみんなわれわれ以上によく知つてゐるといふ感じでした。

ある丘の上に作曲家シベリウスの住んでいた家があります。公式日程がすんで、シベリウスの家を訪問されるときに、細かい日程は知らされていなくて、すでに来られるだろうというので、地元の人たちが出迎えられるわけです。そうすると、殿下はすぐその人たち一人一人にご挨拶に行かれるのです。われわれはここは何時何分とスケジュールを組んであるものですが、「殿下、もうちよつとお急ぎください」と、私はもつぱら急かせ役でした。それは6月、夏至の前だったので、丘の途中の草むらにスズランの花が咲いてゐたのです。妃殿下がそこにしゃがみ込まれて花を見られたのですが、地元の新聞記者が「その花を摘んでみてください、地元の新聞記者が「その花を摘んでみてください」と注文したところ、妃殿下は「いえやはり野の花は野に置けと言いますから」と言われまして、そのお言葉を翻訳が紹介したわけです。それを聴いたフィンランドのカメラマンは、妃殿下をどつと取り囲んで一斉に撮影したのです。翌日の新聞の一面にスズランの花を慈しむ妃殿下の、なんとも言えないすばらしい写真が載りました。そういうことは日本ではおそろしく紹介されなかつたと思うのですが、現地ではこの写真が、妃殿下が「野の花は野に置け」と言われた、というキャプションつきで全国津々浦々に報道されました。フィンランドには自然を愛するといふ国民性がありますから、あそここの人たちの胸には、ものすごく琴線に触れるところがあるわけです。しかも、スズランは日

本の桜と同じように、フィンランドでは国の花なのです。ですからなおさら、向こうの人たちが感激したのです。

後日談になります。ソ連との国境付近に、サブリナという昔のお城があります。リンナというのはお城という意味です。そこで夏の間オペラなどが行われるのですが、そのお城にも最後の日に行かれました。湖がたくさんある所を通るのですが、途中生まれたばかりのアザラシがいます。そこの人たちが両陛下に、「名前をつけてやってください」と頼んだのです。船の上でお二方がずっとご相談をされておられたのですが、最後に「幸(サチ)」という名前をつけられて、しかもサチにはフィンランド語には変な意味がないかを調べられて、その名前をあげられました。このことからわかる通りとても気配りをされる方々です。やはり同じ船の上の話ですが、サブリナでは毎年オペラ祭がありまして、そこに日本からオペラが来てくれないかという要望がありました。すぐには実現しませんでした。昨年それが実現しました。ジャパンウィークというのがあります。日本から東京管弦楽団も参加してマダム・バタフライを上演し、盛大な実現をみました。こうして見ますと、われわれ外交官が何百人海外に出て一生懸命やってもできないことを、皇室外交は、ほんの数日のご滞在でやっつける。先ほどのスズランの話のように、相手の国民の胸に深く入っていく、ものすごい効果があるわけです。

たまたま、現在、天皇・皇后両陛下はご即位後始めてアセアン3国を回られて明日お帰りになります。新聞で拝見しますと、バンコックでも市民と言いますか、みんなに溶け込んで親善

を図ろうとするご様子で、ご一緒した王女方が困っておられたふうだと書いてありますが、バンコックにいた私にはよくわかります。バンコックでは、目上の人に挨拶するときはへりくだり、王様の前などでは、大臣であろうと握手はできない、床に横になるというか這いつくばって挨拶するわけです。向こうの王室はものすごく国民に尊敬されており、王室もまた国民の不満などを一生懸命吸収しようとしておられますけれど、今度の天皇・皇后両陛下のように、民衆の中に入っていく、一緒に話をしたり手を握られたりという王室のスタイルは、バンコックではありえないことです。新聞流に言いますと平成流の皇室外交のアプローチには、陛下のお人柄が実によく表れております。これを皮切りとして、世界各国との親善が、皇室を通じて盛んになることは結構だと思えます。

私も短期間ですがご一緒させて頂いた経験から申し上げますと、今の天皇・皇后両陛下は人のことをよく考えて、しかも名前はよく記憶しておられます。何かの時には気さくに又通をされるます。陛下になられて、どこまで殿下時代のやり方をされておられるかは存じ上げませんが、お気持ちとしてはこれまで通りにやられるということであれば、たいへんいいのではないかと思います。

私がバンコックで一緒したときは、まだたいへんお若かったのですが、日本に留学したタイの人たちの会館がありまして、そこで陛下にお言葉を述べて頂くということがありました。タイから上野の動物園に、たしか花子さんと言いましたか、象が贈られました。そこで当時の皇太子が行かれてお礼のお言葉を述べられたわけですが、壇上に上がられてお礼の書類を「本日

ここに」と読み上げて、そこでお言葉が止まって、ひよいとお供の人にその書類を返されたのです。するとお供の人はなに食わぬ顔で別の書類をハイと渡され、殿下はそれを読まれたのですけれども、お供の人がまちがってよその場所のお言葉の書類をお渡ししていたわけです。「本日ここに」まで読んで、あっ、これは違うというので、書類を返された。それが非常に自然なのです。返されたほうも当たり前みたいな顔をして、別の書類を渡しているのです。昔だったら切腹ものですが、そのような光景を横から見たりしまして、非常にほほえましいと思えました。

今は天皇・皇后両陛下として海外親善を終えられて明日帰って参ります。また、ほかの皇室の方々もすでに海外で勉強されて、いろいろ外との交渉がおりですから、相手の国に合った形で活躍頂き、今まで述べたような皇室外交がますます広がれば、イギリスの王室外交なみのお働きを期待させて頂けるものと思えます。思い起こすままに、取り留めのないおしゃべりとなりまして、時間が来ましたのでこれで終わらせて頂きます。

ご静聴ありがとうございました。



第二部 総会

● 来賓祝辞 ●

秋田県立能代高等学校同窓会長

神馬 恒成氏 旧制九期



本日は、相変わらず大盛会の東京同窓会にお招き頂きましてありがとうございます。今日、私感激したことは、板倉会長さんが今回引退されました。小林さんが新会長に就任すると聞き、今日果たして会長さんはいらしているのかしらと思つて来ました。前よりも非常に元気なご様子でお会いできました。本当に安心したところでございます。まだまだ、板倉会長さんにはこれまで以上の活躍を期待したいと思つています。またもう一つは、この十周年に当たりまして新卒の方々を招き激励したということ、これは東京同窓会の本当の発展のために有意義であらうと、本当に感激しております。またさらに、私の同期生である高橋正太郎君の講演を聴いたこと。私今まで会長就任以来、東京同窓会にお招きを頂戴して参加させて頂いておりましたが、特にこの三つを感激した次第でございます。私の能代山本の地元で、今年はいまだかつてない、

能代市・山本郡で若いわが同窓生3人の県会議員を一挙に出したということ、また、峰浜村の議会議長大谷君が、全国の議長の副会長に就任いたしました。今年は本当に能代高校が、やはり他を抑えて隆盛の一途を辿つておるといふ証拠を見せて頂きました。

この際、もう一つ報告したいのは、私どものホープ佐々木総務庁長官のことですが、私も今日も飛行機に乗る前に病院へ行つてお見舞いしてまいりました。ちょうど彼が入院されて一週間目に、集中治療室で彼をお見舞いして、非常に元気な姿を見ました。また、本日この同窓会の総会で、皆さま方に報告する義務があるということ、本日は午後三時から面会時間でございますが、私十時頃病院へ行つて、所長と主治医の部長お二人の案内で面会してまいりました。今は一般病棟におりまして、盛んにトレーニングをしております。リハビリをやっております。今日も私の前でいろいろ立つてみせたり、体操をやつてみせたり、非常に順調な経過を辿つております。したがって、今回は別として、来年度の選挙には完全に快復して、参議院議員に立候補できるものと、私今日確信してまいりました。以上報告いたしました。私の挨拶に代える次第でございます。今日は本当に盛んなる総会、誠にありがとうございます。

秋田県立能代高等学校校長

推名 光雄先生

皆さんの母校能代高校の校長を、昨年四月から勤めさせて頂いております推名と申します。このようにすばらしい大先輩、また各界で活躍



しているたくさんの方々がこのように集まり、東京同窓会の総会が盛会に行われますこと心からお祝い申し上げます。なおまた、今回始めてのこととは聞きますけれども、この三月卒業して東京近辺におります、新入生と申しますか新会員と申しますか、ご招待にあずかりかつ激励して頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。今年卒業され今日始めて参加の皆さんは、能代高校の卒業生、しかもすばらしいこの東京同窓会の会員であるということ、今日改めて自覚してくださいまして、今後能代高校の卒業生として、立派に社会の中であるいは大学生活を送つて頂ければと、このように期待したいと思います。

学校の概況の詳しいことはお手元に資料として綴じたものをお配りしてあります。その概要は、時間がありますればいつかじっくりお読み頂き、高校時代あるいは旧制中学時代の思い出にして頂ければと存じます。したがって、私からは簡単に二、三申し上げるだけにしたいと思います。まず卒業生ですが、この三月の卒業生を含めまして、総数が一万四千七百六十九名になつております。来年の三月には一万五千の大台を超えることとなります。一万五千の同窓生

をもつて、本同窓会が益々隆盛を極めることを期待いたします。二つ目は、これは喜んでいいかどうかわかりませんが、現在女子生徒が一年から三年までに三百十名おります。全体の三一・三%、ほぼ三分の一ということになっております。華やかなものですが、一見女子のほうが多いような気がしないでもない状況です。

至誠力行・文武両道、これを本校の校是校訓としております。文のほうでは、本校に期待されておられるのは、やはり大学進学でございます。ご承知のように、現在は大変な受験競争激化の時代でございます。今日ここにもおりますけれども、今年の卒業生は、国公立大学が延べにして九〇名、私立大学が一六〇名、併せて二五〇名、一昨年よりも約四〇名ほどの増加でございます。ただ、能代・山本一円からそこそこの選り抜きの生徒が来ております。われわれの努力次第ではまだまだ伸びる素材である、ということをお自覚しまして、先生方ともども、今後とも本校に対する期待に応えていく教育をしてまいりたいと考えております。

もう一点の武のほうでございますけれども、今日はお叱りを受ける覚悟でまいりました。それは甲子園でございます。今年も期待して、来年春の予選である東北大会に出られるのではないかと考えていたのですが、東北の代表として出場、全県の大会の二回戦で敗退しました。大変残念に思っております。すばらしい選手がそろっておりまして、皆さまのご支援を頂きながら、来年の夏こそはなんとかして甲子園へ送り出したいと、学校あげて頑張っております。なお、その他の部活動では、まもなく行われる国体に、体操部四名、陸上競技二名の計六名の選手が出場します。六名ではございますが、進

学校の実態からしますと、まずまずの健闘ではないかと思えます。その他、剣道、バレーボールとそれぞれ活躍していますが、今一步のところでは出ない状況です。ただ、あまり表面には出ないのですが、軟式野球部だけは去年の秋は全県大会、東北大会で優勝しました。今年の春も優勝して、あわよくば明石球場の全国大会と思いましたが、これまた一回戦で代表になつた本荘高校に負けてしまいました。涙を飲んだわけです。その後、秋の全県大会はこれまた優勝しまして、この一九・二〇日に東北大会が秋田であり、現在その優勝をめざして頑張っております。それが学校の現状でございます。

なお最後になりますが、校舎前の田圃がまもなく購入が決定するはずですが、それを整備しまして、校門を私道のほうに移しますと、校舎まで約百三十メートルの通路となります。校門を入つて、さあ、ここからいよいよわが母校だという実感のわく、松の緑に囲まれた通路を作りたいものだ、PTAならびに同窓会会長さんにもお願いして計画を進めております。また、その他の施設設備に関しても、文武両道・至誠力行の教育が充分に実行できるよう、努力してまいりたいと思えます。なお、学校から私を始め、今日見えている新入会員の担任であった半田教諭と佐沢教諭がまいっております。厚々御礼申し上げますと同時に、東京同窓会の益々の発展と皆さまのご健勝をご祈念申し上げ、学校概況の報告とさせていただきます。

能代高校東京同窓会

収支決算報告書

自平成二年十月一日〜至平成三年九月三十日

収 入 (円)		支 出 (円)	
前期繰越分	736,190	総会会場費	640,810
寄付金	383,000	総会諸経費	222,590
総会会費	807,000	印刷・広告代	64,080
名簿売上	60,270	事務経費	141,910
恩師招待寄金	134,000	郵送料	260,971
預金利息	12,604	次期繰越金	802,703
合計	2,133,064	合計	2,133,064

右の通り相違なきことを報告申し上げます。

平成三年十月二日

会計監査監事

八柳 昭義